

Personal
Effects
Cleaner

実務 スタディ

遺品整理

(株)ワンステップサービス 代表取締役

藤川雅幸 Fujikawa Masayuki



vol. 47 藤川雅幸・その2 短期間で事業が軌道に

個人事業としてスタートを切った後、最初に請け負ったのは、老人ホームのケアマネージャーから紹介していただいた邸宅の生前整理でした。このときはリフォームから庭木の植栽・伐採までをセットでご依頼いただいたので、初案件ながら仕事のボリュームも金額も大きなものでした。ご依頼者には、私を含めた従業員2人とアルバイトだけで作業をするため、少し日数がかかることを了解していただいたうえでお引き受けしま

した。また、事業を始める前に、開業支援のセミナーで知識を得ていたので、こうした依頼に備えて、リフォーム業者や造園業者とは連携できる体制を取っていました。

自動車販売を通じたお客様からの紹介もあり、この最初の仕事を約1カ月かけて終えた後も、小さな仕事になりまして。そして「これなら行ける」と判断して、「株式会社ワンステップサービス」として法人化したのが、11カ月後の2015年8月10日でした。

個人事業のときから使っていた「ワンステップサービス」という社名には、「ワンステップ」一歩先」と「ワン」唯一の「で、皆様に「一歩先・唯一のサービスを提供させていただきます」という思いを込めています。この思いをかたちにするために、安心・明朗・確実をモットーに、プロの遺品整理を顧客に提供することをスタッフとともに心がけてきました。その甲斐あってか、短期間で事業を軌道に乗せ、当初の予想を上回るペースで拡大してきました。いまでは1カ月半くらい先まで仕事の予約が埋まっている状況です。現在は4人の社員を核に、パート、

アルバイトを含め9人のスタッフで対応していますが、ご依頼をいただいた案件に対して、当社だけで全てをこなされるわけではありません。そのため、2016年4月からは、フランチャイズ契約に近いかたちで、当社の考え方をご理解いただいて、いっしょに事業を展開していただける事業者様と順次提携をさせていただきながら、全国を視野に対応エリアを拡大してきました。当社のブランドで展開する事業所は、県内外ですでに8カ所あります。

ごみを減らして社会福祉に

当社が遺品整理などの業務を行ううえで、特に意識して取り組んでいるのが、廃棄するごみの量をできるだけ少なくし、かつ社会福祉にも貢献することです。例えば各種の整理作業を通じて新品の紙おむつや、まだ使用できる小型の家電類などが出てくれば、遺族の了解を得た上で、可能な限り社会福祉施設や老人ホームに寄附をさせていただきます。もともと高齢者との関わりがあつて、この仕事をさせていただけるわけですから、社会福祉施設などでお役に立ちそうなものがあれば、寄附のか

たちでお返しをしようと考えたのです。

また、打ち合わせや見積もりの段階で、ご依頼者からお申し出がなくても、買い取りできる品物があれば、当社から積極的に買い取りの提案をさせていただきます。食器などの生活雑貨なども、そのまま廃棄をすればごみになってしまい、処分費にかかると依頼者の負担も大きくなりますから、国内で流通する品物や寄附をする品物以外で、まだ使えるものについては現場できっちり仕分けをしたうえで、バイヤーを介してフィリピン、タイ、マレーシアに送って再利用します。こうしたルートを確認することも、事業を軌道に乗せる重要なポイントでした。(次号につづく) W

●執筆者プロフィール●

藤川雅幸 | Fujikawa Masayuki

1965年生まれ。埼玉自動車大学校(旧・埼玉工業専門学校)卒業。卒業後は神奈川県内の大手自動車ディーラーに勤務。その後、母親が経営する南オークマに就職。役員として自動車関連の業務を行う中、東日本大震災を機に、もっと顧客から「ありがとう」と言われる事業を始めたいと考え、某テレビ番組で高齢者をテーマにした番組を観たのをきっかけに、遺品整理・特殊清掃を柱とする株ワンステップサービスを設立。安心・明朗・確実を心がけ、プロの遺品整理を顧客に提供する。